技術フォーサイトセンター室

＜事務局よりお願い＞

ﾀｰｹﾞｯﾄ・狙い・ﾒｯｾｰｼﾞ(1頁目)と骨子(2、3頁目)の3頁をセットで提出願います。

阿部　裕

戦略研レポート「2021年注目すべき技術」スケルトン（検討会：2020年12月3日）

**タイトル案**：『第三世代ゲノム編集技術　プライム編集』

1. **ターゲット（想定読者）**

《必須》三井物産役職員(対象営業部、海外店等を具体的に記入)：

ゲノム編集技術CRISPR-Cas9やその他のゲノム編集技術に関心のある役職員

1. **執筆の狙い（3行程度／何のために執筆、発信するのか／三井物産への貢献点は）**

＜選択＞A．想定読者が知識として知っておくべきこと

* ゲノム編集技術CRISPR-Cas9は、2012年の論文発表から8年でノーベル賞を受賞するほど優れた技術であり生命科学以外での産業利用も行われるなどの成果を得ている。しかし完璧な技術は存在せず欠点も存在する。この欠点を是正する研究開発が世界中で行われる中から、次世代のゲノム編集技術が生まれている。2021年注目すべき技術として第三世代ゲノム編集技術「**プライム編集**」を取り上げ解説する。

1. **メッセージ（想定読者に何を伝え、何に気づかせたいのか。3点迄にまとめる。）**

* **「ゲノム編集技術＝CRISPR-Cas9」**ではなく、ゲノム編集には色んな技術が存在する。

世界初めてのゲノム編集技術は、**ZFN（Zinc-Finger Nuclease）**である。その後、**TALEN（Transcription Activator-Like Effector Nuclease）**が2010年に登場した。これら2つの技術は、CRISPR登場後の現在でも利用されている。CRISPRだけがゲノム編集技術ではない。

* CRISPR-Cas9には、オフターゲットという意図しない遺伝子改変が行われる可能性があり、この欠点を是正する研究開発や、より使い勝手の良いゲノム編集技術の開発が進められ、現在はDNAだけではなくRNAやミトコンドリアDNAなどの編集も可能となっている。
* 2021年にゲノム編集の最新技術として注目を集めると考えられるのが 「**プライム編集**」である。プライム編集は、独創的な遺伝子改編手法により、安全・確実に遺伝子を編集することが可能な技術で、オフターゲットの心配も少ないことから、ヒトに対する遺伝子治療など、医療分野をはじめとした次世代型のゲノム編集技術として本格的な利活用が進むと考えられる。

1. **骨子**（各項目に見出しを付け、●に内容を簡潔に説明のこと。それぞれの●は3行程度、骨子全体で1ページ以上2ページ以内(1ページのみは不可)とすること。文章全体の流れ、起承転結に留意。）
2. **プライム編集技術とは？**

* ゲノム編集技術は、人工制限酵素を利用する第一世代（ZFNやTALEN）、核酸分解酵素を利用するCRISPRなど第二世代を経て、デアミナーゼや逆転写酵素を使う第三世代の時代を迎えようとしている。プライム編集は、CRISPR-Cas9のようにDNA二本鎖を切断せずにDNAの片方の鎖だけを切断するCas9ニッカーゼ（nCas9）を用い、これにRNAの配列をもとにして（鋳型として）その配列情報を持つDNA鎖を合成することができる逆転写酵素（reverse transcriptase;RT）と呼ばれる酵素を結合させた複合体（二つの働きを持たせた酵素分子）を合成。最大の特徴は、逆転写酵素がRNAの配列を写し取るための鋳型の機能を追加したpegRNA（prime editing guide RNA）を開発している点にある。
* プライム編集では、最初にpegRNAがゲノム編集する場所に取りつき、二本鎖のDNAを開いた状態にする。ここでCas9ニッカーゼが一本だけを切断し切れ目（ニック）を入れる。次にpegRNAの反対側の端が切れ目の入ったDNAに貼りつき、続いてRT酵素の働きによって、pegRNAの配列を鋳型として、その配列を写し取った新たなDNA鎖が作られます。この部分はpegRNAの配列から写し取られますので、pegRNAに元のDNA配列とは異なる配列を入れておけば、どのような書き換えも可能。新しい配列が導入されるとDNAが完全な二本鎖にはならず一部が飛びだした状態になります。この飛び出た部分は細胞内にある核酸分解酵素により迅速に分解されため、新しい配列を組み込んだ二本鎖だけが残ることとなり、DNAの書き換えが完了する。
* 研究グループは、ゲノムの狙った位置で思い通りの配列への書き換えが可能であることを確認している。このプライム編集は、4種類の塩基を他のどの塩基にも置き換えることができ、1-44塩基の挿入、1-80塩基の欠失、また、これら置換・挿入・欠失を組み合わせたDNAの書き換えが可能であることを論文で発表している。つまり遺伝子修復機構という偶然に頼らない本当の意味での「編集」が可能な技術がプライム編集である。
* プライム編集は、登場して間もないこともあり、書き換えの効率はこれまでの相同組換え法と同程度であると報告されているものの、望まない配列に書き換えられた副生成物の割合は格段に少くないことも確認されており、今後の技術改良により効率化などは改善されると期待されている。

1. **有望な活用分野　–医療分野**

2-1.CRISPRの医療分野における利用もlow hanging fruitsは限定的で、疾患対象となっているのは、眼、血液、肝臓に限定されている。眼や肝臓は、Cas9＆ガイドRNAを送達しやすく、特に眼に関しては治療効果が顕れると眼が実際に見えるようになるという効果が得られるので、分かり易い。血液の場合にも、血球を直接取出して遺伝子編集を施せるので、Cas9＆ガイドRNA複合体の巨大分子を送達する必要がない。また、T細胞受容体を遺伝子改変し、免疫力を高めるCar-T治療は、米国、中国で行われ有為な治療効果を得ている。しかし、これら、医療分野におけるゲノム編集は、ノックアウトや非相同修復による遺伝子挿入が殆どで、一塩基のみの変異による遺伝子病などの治療など遺伝子疾患については、Cas9の欠点を超えるという大きなハードルが幾つも存在する。

代表的なものには、Cas9＆ガイドRNA複合体の小型化がある。前述のように分子量が大きいいため、そもそも治療したい組織に送達できない問題がある。リボソームやウイルスなどにCas9＆ガイドRNA複合体を送達する技術開発がないと医療分野での利用拡大は、限定的とならざる負えない。またCas9が機能するタイミングを調節する技術、非相同修復だけでなく、効率的に相同組換えを行える技術が必要である。Cas9＆ガイドRNA複合体を利用する第二世代のゲノム編集技術では、これらのハードルを越えることは困難であると考えられている。

* このプライム編集の利用目的として研究グループが狙っているのは遺伝病の治療です。ヒトの疾患に関わる遺伝子変異を適切に修正し、遺伝病を治療するためには、このように正確で副生成物の少ない方法の開発が求められているからです。プライム編集はまだ極めて新しい技術であるため、植物の品種改良に適用するためには細胞や生物の種類に応じた酵素やpegRNAの最適化が必要で、これらのツールを編集したい細胞・組織へどうやって送り込むのかといった課題もありますが、将来の発展が期待される技術です。
* 中国では、プライム編集を利用した稲の遺伝子改変を行っている。中国のグループがイネにプライム編集を試みた論文が2020年4月8日に公開[[1]](#footnote-1)されました。それによると、思い通りの配列に編集できた効率は0-31%と遺伝子の部位によって大きく異なりましたが、プライム編集はイネのゲノム編集においても自由度の高い利用価値のあるツールであると報告しています。

1. **今後の展望**

* Prime 編集は、2019年に発表された技術であり、Cas9をDNA2重鎖切断酵素から1本鎖切断酵素に変換し、さらに逆転写酵素との融合タンパク質として発現させる方法です。Prime編集におけるgRNAは、pegRNAと呼ばれ、Cas9によって切断された片方の鎖に挿入するための任意の配列を持っています。これによって2重鎖の片方の鎖のみを最初に切断し、編集を行うことができます。従来のCrispr/Cas9システムではターゲットサイトの2重鎖切断が起きるため高確率で変異が導入され、オフターゲット効果が懸念されてきましたが、この方法ではまず片方のみが修飾されるためオフターゲットが減り、さらにゲノムへの遺伝子ノックインも同時に行えるという利点があります。
* ヌクレアーゼを用いたゲノム編集治療、特に第3世代のCrispr/Casシステムを用いたものは、まだまだ実際に治療として利用される段階には至っていませんが、活発な基礎研究が行われることで有効な治療法へと結びつく可能性も高まっていると考えられます。当社のコラムでも何度か登場している次世代シーケンサーや、Single cell 解析など技術の革新によってゲノムの機能についての情報量が膨大に増えてきています。病気のメカニズムの解明と治療法の開発が急ピッチで進んでいますので、常に新たな情報に目を光らせ、開発の一助を担うべく努力してまいります。

1. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2590346220300262>　 [↑](#footnote-ref-1)